

産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・結核治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00-12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄郷878-16
 IP Tel: 058-295-9545
 FAX: 058-296-3903
 E-mail: zazenoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazenoh.town-web.net/

第109号 2013.4.1.
 毎月1回発行 産禅洞診療所 松井英介

子どもたちへ

松井英介

3月14日、私は初めて双葉町を訪れました。2年前に時が止まったままの人影のない街並、一面枯れたセイタカアワダチソウに覆われた田園風景に息を飲みました。完全に潰れ屋根瓦が地面に接している家々。放置された自転車・自家用車・トラック・耕運機……。缶ジュースが詰まったまま静かに動かない自販機。枯草に覆われた田んぼ……

今なお50~100 μ Sv/hr (438~876mSv/yr) 以上の高線量地域が町内随所にあります。政府と福島県はこのような双葉町をも三つに分断し、あたかも町に帰ることができるかのような幻想を与えながら、一方で、放射性汚染物質の中間貯蔵施設を受け入れさせようとしています。

私たちはこの度、一冊の絵本をつくりました。

セバスチャンおじさんからの手紙『子どもたちへ』です。絵本としたこの手紙は、昨2012年6月福島県猪苗代町で開かれた「市民科学者国際会議」で生まれました。ドイツ・ベルリンから参加したドイツ放射線防護協会会長・セバスチャン・ブフルークパイルさんが、福島、そして日本の子どもたちに宛てて書いたものです。「私たちは同じ舟に乗っている（運命共同体なのです）」と語るこの手紙を、私たちは日本の多くの子どもたち、若い人たちに届けたいと願いました。



放射性物質は、目に見えません。匂いもしなければ、たいいちは感じることもありません。

2011年3月11日の震災で、福島県にある東京電力福島第一原子力発電所が爆発、原発から出た放射性物質は空中をたどって、東北地方を中心に、土、山、川に降り注ぎました。見えない、その放射性物質は、地球上にもともとあった自然放射線と違って、人間がつくった毒なのです。この毒がいのちの仕組みをこわし、病気にかかりやすくするのです。

いのちは、何よりも大切なものです。

それは、おじいさんおばあさんからお父さんお母さんに受け継がれ、そして子どもたちへ、そのまたつぎの世代へと受け渡され、続いていきます。いのちは、未来です。いのちがやどる小さな細胞ひとつひとつに何が起るのか、大気や食べものに混じって、ひとつひとつの細胞の中にやってくる、目に見えない放射性物質の小さな粒のことを、私たちは考えなくてはならなくなりました。

セバスチャンおじさんは、語りかけています。

「君たちが大きくなって、福島で起こったこと、君たちが経験したことは忘れないでください。誰にも君たちに嘘をつくの許さないで、君たちの頭を使って考え、真理を探究してください。そしてそれは、君たち自身の力で行ってほしいです」と。(3月末発売 A5版 定価950円+税 発売旬報社)